

公共施設マネジメント通信 vol.2

平成 29 年度

平成 29 年 10 月 31 日発行

第 1 回まちづくりワークショップを開催しました！

小田原市 企画部

公共施設マネジメント課

鴨宮地区

進行：工学院大学 建築学部
遠藤 新 研究室



実施期間

2 年間

(平成 29 年度～平成 30 年度)

ワークショップの目標

鴨宮地区を対象として、公共施設の再編案を作成する。

最終成果(アウトプット)

- パイロットプロジェクトの作成
- 新しいサービスに関するアイデアの整理
- 公共施設を撤去する場合の跡地・建物活用のアイデア整理

まちづくりワークショップのスケジュール (平成 29 年度)

第 1 回

住民の視点から公共施設再編の課題をさぐる①

第 2 回

住民の視点から公共施設再編の課題をさぐる②

第 3 回

公共施設の方向性をさぐる①

第 4 回

公共施設の方向性をさぐる②

第 5 回

今年度のまとめ・報告会

意見交換の概要

日時：9 月 22 日(金)18:30～20:30

場所：川東タウンセンターマロニエ 202 会議室

参加者：18 名

傍聴者：4 名

第 1 回テーマ

鴨宮地区の公共施設に対する思いを自由に語る

意見交換の視点

- 市の問題提起をどう受け止めるか
- 問題提起について市民として何ができるか

流れ

- 意見交換・まとめ(60 分)
- 発表・質疑応答(5 分)

老朽化と財源不足

- 老朽施設が多く、通常の維持・修繕が必要である。
- 市有財産の売却など、財源確保に向けて考える必要がある。

防災

- 老朽施設が災害時に、本来の機能を果たせるのか不安である。
- 防災面を考慮した、公共施設再編の検討が必要である。

公共施設の利用

- 市民のライフスタイルと公共サービスにズレがある。
- 公共施設のアクセスを重視した施設の均等配置が必要である。
- 施設利用の手軽さやアクセスの快適性の検討が必要である。

合築・統合等

- 学校の空き教室の有効活用など機能の複合化が必要である。
- 支所は、人が集まる施設であるため必要な施設である。

大事な公共施設

- 公民館や集会施設はコミュニティ施設として重要な施設である。
- 若者が集まれる施設が欲しい。

地域や民間との連携

- 公共施設再編は民間施設との関係を含めて考える必要がある。
- 施設を民間や地域に譲渡できるか、管理運営を任せられるか、検討が必要である。





実施期間

2年間
(平成29年度～平成30年度)

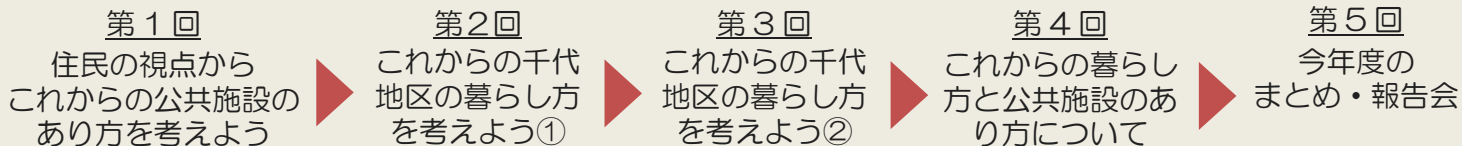
ワークショップの目標

千代地区を対象として、これからの暮らし方を考えて、地区の公共施設のあり方を検討する。

最終成果(アウトプット)

- 住み続けられる暮らし方のビジョンの提示
- それを実現する公共施設とサービスに関するアイデアの整理

まちづくりワークショップのスケジュール (平成29年度)



意見交換の概要

日時：9月29日(金)18:30～20:30
場所：梅の里センター 大会議室

参加者：16名
傍聴者：5名

第1回テーマ

千代地区の公共施設に対する思いを自由に語る

意見交換の視点

- 市の問題提起をどう受け止めるか
- 問題提起について市民として何ができるか

流れ

- 意見交換・まとめ(60分)
- 発表・質疑応答(5分)



老朽化と財源不足

- 築年数が古い公共施設が多く不安を感じる。
- 予算配分の見直しが必要である。

公民館

- 各種行事などが多く開催され、コミュニティの核となる機能として、有効に活用されている。

利便性・アクセス

- 施設の駐車場が不十分である。
- 住民の移動手段を基に、施設配置を考える必要がある。
- 施設利用のPRが必要である。

支所・分館

- 会議室が大きく公民館と同じくコミュニティの核となっている。
- 木造の温かさや趣が感じられ、建築物としての価値がある。

空きスペース

- 小学校の地域開放の検討が必要である。
- 公園に飲み物を買える所がない。
- 活用できそうな空きスペースはあるが上手く使い切れていない。

複合化

- いつでも誰でも利用でき世代間交流できる場所が必要である。
- 民間や地域への業務委託により用途を多様化し、サービスの確保が必要である。



【問い合わせ先】

小田原市企画部公共施設マネジメント課
TEL：0465-33-1305 FAX：0465-33-1286
Email：shisetsu@city.odawara.kanagawa.jp
〒250-8555 小田原市荻窪 300 番地